



No. '20-2

(No.101)

Apr.2020

# ISGG NEWSLETTER

## 伊東市善意通訳の会

### C O N T E N T S

1. 英語らしさ、について On the Town	会員	水谷 順	2
2. コロナよもやま	会員	加藤 達雄	6
3. コロナにマケルナ	会員	野満 勝二	9
4.初めての海外旅行？！	会員	相良 恭子	11
5.最近のこと	会員	石田 泰嗣	13
6.国境を越えて	会員	榊原 教子	14
7.新型コロナウイルス騒動から学ぶ英語	事務局長	小西 恒男	15
《事務局だより》			17
《編集後記》			18



伊東の山に咲くテロペア

## 英語らしさ、について On the Town



会員 水谷 順

### 気楽に、簡潔に

昨年まで 40 年間アメリカ企業で働きました。その間公用語として英語を使ってきました。こういうと僕が英語のエキスパートのように聞こえますが、働き始めた当時、英語で話すことはほとんどできませんでした。それでも幸いなことに当時東京の支社に、米国本部のアメリカ人が駐在していて、よく聞き取れないままでも少しずつ彼らのしゃべり、読み書きを観察させてもらえました。そうしているうちに、英語とは、学校で習ったものとはずいぶん違うものだ、とを感じるようになりました。一言でいえば、米国人の英語は表現が気楽で簡潔で適切なのです。われわれ日本人が日本語を話すとき、国文法など考えてしゃべることはありません。英語も同じですが、われわれが当時の日本の学校で習った英語では米国人ならごく普通の自由な言葉の使い方がなかなかできないのです。

そうこうしているうちに、下手でも海外とやり取りをする仕事をさせられ、下手なりに英語でコミュニケーションをとるようになり、数年後には、僕自身考えてもいなかった米国本社への転勤という運命が待ち受けていました。しかも通算 15 年米国暮らしをするようになるとは全く想像もしていませんでした。

転勤先は米国企業で日本人の同僚はいませんから、出勤して帰宅するまで、日本語を使うことは皆無の環境です。さらに職場を離れても日常生活はアメリカ社会の中にいるわけで、そこでよく使われるいろいろな英語表現と遭遇したわけです。

そんな生活体験の中、おもしろいな、と思った表現、そしてあまり日本人が使わないけれど、きけばなるほど合点、といった便利な表現をいくつか思い出してみます。

## 生活の中で

- 赴任先はアメリカの中西部、カナダと国境を接している北国でしたからスキーが盛んです。赴任した最初の冬に前からやってみたいと思っていたクロスカントリースキーに行こうと思い同僚にいろいろ教えてもらいました。あちらはゲレンデスキーとクロスカントリースキーの2種類があります。日本ではクロスカントリースキーはあまり普及していませんが、あちらでは町中にコースがあります。冬は町中が雪に覆われるので、ゴルフ場が冬はクロスカントリースキーのコースになっているところも多いのです。友人は、かなり激しい運動で、汗をかくと暑いですが、最初は寒いから「暖かくして、靴下は二枚重ねに」と言ってくれました。この時の表現、

Dress warm, double socks.

これだけです。簡単でしょ。でも我々は文法など考えてしまうから、このような表現がなかなか出てこないのです。ちなみに、ゲレンデ、はドイツ語でしょうから、アメリカでは使いません。ゲレンデスキーは

Downhill skiing

クロスカントリーはそのまま

Cross-country skiing

です。

- もう一つ、旅行社の窓口で航空券、ホテル、レンタカーなどの予約を頼みにいったとき、こちらが希望したものをすべて手配し終わった係員が

You are all set.

と言いました。日本語では「ご依頼はすべて手配いたしました」とでも言いますか。この表現はいろいろなところでよく使われますが、あまり日本人にはおなじみではないようです。

- 日常会話の中で、相手の言っている意味がよくわからない、何を言っているか理解できない、というのは、日本語でもよくあることです。日本語だったら「それってどういう意味」「もう少し分かりやすく説明してよ」などという場面、英語でよく使われるのが、

Tell me what this is all about.

All about が、あれこれ、どういう、といったニュアンスを表し、いろいろなところで便利に使えます。

例えば、

I hear about Coronavirus here, there and everywhere but I don' t know how it affects people in the world. Could you please tell me what this is all about?

「あちこちでコロナウイルスの話聞くけど、どう恐ろしいのか私にはよくわからない。もっとわかりやすく教えてくれないか」

とでも訳せますか。

- 友人ががんの宣告を受けて、医師から手術をするかしないか、意思確認を要求されました。手術をすれば完治する可能性もあるが、失敗して術中に死亡する危険もある、と言われたそうです。彼は手術をしないで薬物療法を選択しました。その時の彼の科白、

I want to die on a bed, not on a table.

手術台で死ぬより自分のベッドで死にたい。ということですが、簡潔な表現です。Rather than die on a table とも言えますが、余計なことは言わないほうが本人の意思がストレートに伝わってきます。

- あまりきれいな表現ではありませんが、感心したやつを一つ。友人がゴルフ場で後続の組から難癖をつけられました。プレー進行が遅くて後が詰まっている、と言ってきたそうですが、実際に彼らの組の進行が遅かったわけではないのです。理不尽な言いがかりに腹を立ててクラブハウスに戻ってきた友人たちに、顛末を聞いた別のおじさんが、

You should say them “Kiss my ass” .

と言いました。日本語ならさしずめ「とんだいいがかりだ、ふざけんな」となりますか。Ass、お尻、という単語はいろいろな悪口表現に使われ、日常使ってもそれほど汚いことばとは思われないようで、女性もよく使いますが、ものがものなのでくわしく解説するのはちょっとはばかられますね。

- レストランで、だれが勘定を払うか、という会話。

割り勘にしよう、というときは、

Let' s split.

これで済みます。つまり勘定書きを分けよう、ということ。割り勘を Dutch count と言ったり、let' s go Dutch というのはアメリカではあまり聞きません。この表現がないわけではないのですが。特にオランダ系米国人の間では、まず使われないようです。オランダ系はケチだ、とは思われたくないのでしよう。

注文を取りに来たウェイターが支払い分担をあらかじめ聞いてくることがあります。3人で会食したとすると、

One bill or three bills?

「一括でお支払いですがそれとも別々ですか」

ということです。

会食してそのうちの一人が「今日は俺のおごりだ」という場合、勘定書きが来たら、

I will take care of it.

これだけで済みます。

- 最後に僕の好きなフレーズ、表題にもした

On the Town

なぜか、と言われても説明しようがない、こういうものなんだとしか言いようがないのですが「酒を飲んでうかれる」「夜の街へ繰り出す」という意味。繰り出す場合は、

Go on the town.

盛り場で起こっている面白いことは

Things on the town.

簡単な表現ですが、米国に行くまでは知りませんでした。

ということで、まあ思いついたものを少し紹介しましたが、言葉はほんとに生き物ですよ。本日はこれまでなので、

I am all set.

お疲れ様でした。

## コ ロ ナ よもやま



会員 加藤 達雄

さて、どう始めましょうか。“Where do I begin to tell the story of ~” はあの Erich Segal の「Love Story(ある愛の詩)」の書き出しですが、本当に何から始めよう。

そうです、「コロナ」の話です。

毎日、毎日「コロナウイルス」の話ばかりで、「およげたいやきくん」ではありませんが本当にやになっちゃいますね。

この際「コロナ」を、ラテン語の辞書（羅英辞典）で調べてみました。

corona は wreath、garland、crown とでております。

つまりは 花輪、花冠、冠です。

wreath と言うと、私は先ず戦没者の慰霊碑の前に捧げられる花輪や、クリスマスの頃、壁に掛けられるヒイラギや赤い色（あれはポインセチアですか）を使った花輪を思い浮かべます。

もと居た職場では、クリスマスのシーズンには飲食部門の女子社員が手作りで wreath をこしらえていました。お客様に「これリースですよ?」と尋ねられて、気の利かない私は、「いえいえ、ホテルの手作りです」と、訳の分らないお返事をしていたのでした。（日本語の会話では wreath も lease もリースであります。）

ところで、車の話になりますが、Toyota は Crown があるから Corona や Corolla (カローラ) があったんですね。

私の愛車は長年にわたって「コロナ」でした。そのうち、名前が「コロナ プレミオ」と変わり、次いで「コロナ」が取れて「プレミオ」だけになり、私は暫くの間「プレミオ」に乗っていました。「庇を貸して母屋を取られた感じだ」とよく愚痴っていましたが、でも、もし車名がそのままだったら、今頃「加藤さん、アンタいま何に乗ってるの？

えっ、コロナ、それも新型に！」と言う事になっていたかもしれません。

ラテン語の「corona」は、スペイン語もイタリア語も「corona」、ポルトガル語はなんと「coroa」で“n”が落ちます。フランス語に至っては「couronne」とだんだん英語の「crown」に近づいてきます。イエスキリストが被らされた荊冠、つまり茨の冠のスペイン語は「corona de espinas」、イタリア語は「corona di spine」、フランス語は「couronne d'epines」。

ついでに言えば英語では「the crown of thorns」。各国語ともご丁寧にトゲトゲがちゃんと複数形になっておるのが律儀に思えます。

また一方、ドイツ語は krone で、所謂「corona」であり「crown」に当るわけで、そういえばデンマークやノールウェーなど北欧諸国では クローネなどと言う通貨で、王冠の図柄を呈した貨幣があったような気がしたのですが。

ところで中国語 Mandarin ではコロナウイルスを「冠状病毒」と言います。ウイルス (virus) を「病毒」と書くと、全くもって人体に害を及ぼすものという感じが強く伝わって来る気がしてきます。

それから「マスク」は「口罩・kouzhao」と言いますが、つまりは「口を覆うもの」です。

そうなれば「胸罩・xiongzhao」は「胸を覆うもの」、そうです brassiere なのであります。

「冠状病毒」に罹ると感染の怖れがあるので看病もままになりません。

「看病」は中国語では、「医師による診察、もしくは受診する事」。そうですね、「病気を看る」ので

すから。

日本語の看病に当たる言葉は「看護・kanhu」 护は「護」に当たる字なので、早い話が「看護」であります。

オマケですが、新型ウイルス騒ぎでオリンピック、パラリンピックが延期になった日のテレビニュース。高額な観戦チケット60万円を購入した人の「これはどうなるの」という心配気な様子が映っていました。その時、画面下に出たテロップが「感染チケット」に見えた気がしたのですが。一瞬あっけにとられました。このご時世、機械の記憶も「観戦」が「感染」になっていても無理からぬ事と思った次第です。でも、やっぱり自分の錯覚か。どうも最近視力の衰えが進んでおりますので。

どうでもよいことをくどくどと書いてしまいました。

お前は一体何が言いたいのかと言われそうになってきました。

かつて流行った 小林 旭の「自動車ショー歌」という唄があります。

その一節ですが、そろそろ「♪ここらでやめてもいいコロナ」とお思いでしょう。

と言っても、私の場合はどちらかと言うと3番の「♪忘れて勉強セドリック」ですが。

それでは皆様、「新型コロナウイルス」には、くれぐれもお気を付けになってお過ごしください。大変しつれい致しました。



草々不一

コロナで人のいない城ヶ崎



## コロナにマケルナ



会員 野満 勝二

コロナ騒動の渦中、会員の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。私自身、直接的な影響はないものの、医療の最前線で活動されている医師、看護師の皆様方、休業のやむなきに至った飲食業、宿泊業、サービス業、休業に伴い収入が途絶えた方、特に母子家庭など、多くの方々の御労苦に思いをいたすとき、大変胸が痛みます。特に、観光を主体とする伊東市の市民の皆様方も、人の流れを止める感染防止策の実施、人の流れがあることによって得られる収入の確保という二律背反する対応のはざまで大変深刻な事態に陥っておられます。

この世界的危機に際し、国民の先頭に立ち、真摯な対応をされてきているヨーロッパ諸国のリーダーに比べ、世界第三位までの経済大国のトップが、自国ファースト、極端に言えば自己ファーストの姿勢が見え隠れし、経済活動再開に前のめりのような印象さえあり、その舵取りには大変な不安を覚えます。特に、従来から、多くの問題に対し不誠実な対応に終始してきたわが国のリーダーは、この国難に際しても、首をかしげる言動ばかりが目立ち、自らの言葉で丁寧に国民に語りかけるという姿勢が全く見られず、私たちにとって、きわめて不幸な事態が続いております。私たちは、この時期にこそ、為政者がどのようなことを発言し、どのような行動をとっているのか、引き続き耳目を属し、記憶にとどめ、今後引き続き監視していく必要があります。

私自身、これまでどおり、超早寝早起きの生活を維持し、午前3時過ぎに目覚め、筋トレ等によりからだを温めた後、人影皆無の中、散歩に出かけます。最近、飼い犬が足を痛めたため、今は私一人ですが、70段ほどの階段を含む近所の周回コースを6周、NHK語学番組のストリーミングサービスを利用しながら、約1時間、心地よい汗をかいております。入浴、朝食後、合間にラジオ体操で体調を整え

つつ、午前中、頭の体操にも精出しております。現在、2年前のシベリア鉄道の旅の際、短時間で終わったモスクワ観光に加え、サンクトペテルブルク散策などを目的として、ロシア語を中心とした学習に励んでおります。

昼食、昼寝の後、掃除など専業主夫としての仕事をこなすとともに、庭の草むしりなど、からだを動かすことにも心がけておりますが、頭もからだも完全に使い切った段階で、これまで蓄積してきた古い映画を鑑賞することも日課の一つとなりつつあり、午後7時までには眠りにつくという流れです。

私一人にできることは限られておりますが、人との接触を10割近くカットする生活を継続することで、感染を拡大させないことに多少なりとも貢献できるのではないかと思います。このコロナ対応が長期戦の様相を呈してきておりますので、終活にも励む一方、古今東西、森羅万象への興味をできる限り失うことなく、知ることの喜びを追求するとともに、収束した後の旅行の楽しさなどイメージを膨らませつつ、日々を過ごしております。

皆様方におかれましても、体調維持に御留意いただき、

多くの活動が再開できる日までお元気にお過ごし

いただきますことをお祈りいたしております。



## 初めての海外旅行？！



会員 相良 恭子

コロナ疲れの皆さんに笑って頂こうとちょっぴりほろ苦い私の初めての海外旅行(?)の話を書かせて頂きました。

1970年8月私は妹と2人で当時アメリカ統治下の沖縄にパスポートとイエローカードを持って行きました。当時住んでいた名古屋から西鹿児島まで電車、鹿児島港から船で那覇へ。台風が来て入港出来ず、泊港沖で台風が過ぎるまで待機。船が揺れに揺れ、2等船室の雑魚寝で、おまけに近くにキッチンがありその匂いで気持ち悪くなり・・・下船してもまだ体が揺れていました。下船して直ぐ9セント(?)で食べた氷あずきの美味しかったこと!! 当時はドルでした。

那覇市のユースホステルに泊まり摩文仁の丘に行きました。そこで花売りのおばあさんに会い、そのおばあさんから沖縄戦の話を聞かせて頂きました。『戦争の時は地面に転がる死体をまたいで歩いた。その死体は日本人だけではなく。アメリカ兵の死体も同じ様に転がっていた。』お花を買った訳でもないのに真面目に話を聞いてくれたと売り物のジュースをくれました。その方は元学校の先生で、今はここで花を売りながら沖縄戦の事を話しているのだと言っていました。いつかもう一度ここに来てお礼をしようと思いつつそのまままになってしまいました。

その後北部に行き、そのユースホステルで4人の男子大学生と知り合いになり、帰りに私達も加わって、ヒッチハイクでどのチームが一番最初に名護から那覇のある家に早く着くか競争する事になりました。今では信じられない程無鉄砲なことをしたのですが、私と妹は、たまたま同郷の愛知県出身の出稼ぎのおじさん2人の車に乗せてもらい、生まれて初めてアメリカ式のドライブスルーでアイスクリームを買ってもらい食べました。何番目に到着したのか忘れましたが、とにかく目的の那覇のある家に着きました。そこは知り合った大学生のうち2名が東大生でその学生の身元保証人の家でした。(当時は身元保証人がいなければ沖縄には行けませんでした。私達も父親が働くガソリンスタンドにアルバイト

トで来ていた沖縄出身の学生のご両親が身元保証人になって下さっていました。)そこで全員お昼ご飯をご馳走になり、男の子達がモリモリ食べ、ご飯が無くなったので私が台所にお替りを貰いに行くと、浴衣を着て後ろ向きに座っているおじいさんがいました。後で聞くとその人が屋良主席で、その家は屋良主席の娘さんの家でした。怖いもの知らずとはこのことです。その娘さんが、東京の学生が身元保証人を依頼する手紙を英文で書いてきた事を話し、『もう少し沖縄の事を勉強してから来なさい』と返事をしたと話してくれました。

帰りがまたまたドタバタ、那覇港で高校生が父親にタバコをお土産に買って行きたいのだけど未成年だから買えないのでお姉さん代わりに買ってこないかと頼まれ、いいよと気楽に買ってあげ、鹿児島港に着いた時、そのタバコを高校生に渡し代金を貰おうとしていると、トントンと肩を叩かれ、「ずっと見ていたけど、これは密輸になるんだよ。」と港湾事務所に連れて行かれました。「見逃してあげたいけど、税関、港湾警察、専売公社みんな見ていたからダメなんだよ。悪気は無いようだから『善意の犯罪』として現物没収、罰金は後で通知するからその時に払うように。」と言われました。厳密には自分で吸う以外はお土産にあげても密輸になるそうです。私は港湾警察に帰りの電車の切符を見せ「おじいさん、この電車に乗らないと困る。残ったお金でお父さんやお母さんにお土産を買ってしまったから、もうお金はほとんど無いの」と言うとパトカーで西鹿児島駅まで送ってくれました。それを見ていた東大生は高校生に「タバコの代金をお姉さんに払いなさい。」と言ってくれ、私が払った代金を取り返してくれました。家に帰ってもこの事は内緒にしていたのですが、後日、罰金の支払いを命ずるハガキが届き、親にバレてしまいました。もちろんかなり叱られました。

すでに大人になっていたのに、社会の事も、政治の事も何も知らず、

今考えると恥ずかしくなる初めての海外旅行(?)でした。



## 最近のこと



会員 石田泰嗣

今日は2020年4月21日（火）である。今はコロナウイルスの活躍期間中で、私たちの出番がない。そんな中、先日三島市の「佐野美術館」で宇宙の写真展があることを知った。私は是非とも見たいと思った。時々一緒に食事をする同級生の仲間にそのことを話したら、それほど関心を示さなかったので前売り券を買って一人で出かけた。開催期間は4月11日～5月末までとあったがコロナの関係でいつ閉館になるかわからない状況にある。思い切って開催初日に出かけた。（実際には5日間だけ開いて、閉館となっている）時期が時期だけに入館者は少ない。もちろん皆さんマスクをつけての参観となる。参観者が少ないのでゆっくり見られるのはありがたい。確か小学校の時、太陽系の惑星は「水金地火木土天海冥」と教わったことを思い出す。今は、冥王星は惑星から外されて準惑星の立場だそう。これら各惑星の写真やはるか遠くにある天体の写真は美術作品のように美しく見える。ところで伊豆高原駅の裏手に東京の大田区の学園がある。大田区の59の小学校の5年生すべての児童がここで5月から12月までの間に2泊3日の集団生活をする。案内人会の城ヶ崎大室山部会は希望する学校があれば児童と一緒にコースを歩いて説明する。雨天の時は予定を変更して、学園内での講義になったりすることもある。

私は、その時、紙に「130億年」と書いて児童に示して「これが何を意味するか分かりますか」と尋ねたら数名の児童が手を挙げてくれた。今は正式には138億年だそうです。佐野美術館のタイトルも「写真展：138億光年 宇宙の旅」となっている。地球の周りには大気があり、それが地上からの望遠鏡では妨げとなって宇宙のきれいな映像を撮れないことにつながるそう。今ではハッブル望遠鏡のように宇宙を飛びながら鮮明な映像を撮り続けることができる。このような美しい写真を子供たちにも見てもらいたいのだが、果たしてコロナウイルスはどうなっていくのやら

## 国境を越えて



会員 榊原教子

K's salon であったアメリカ人の方と連絡先を交換していたので、コロナウイルスが心配でしたので、メッセージを送りました。お返事がきて、やりとりしています。

彼は資本主義経済がどうなるだろう、ともいっていました。

以下はわたしの文章です。

I appreciate you for that you took time to write message using dictionaries for me.

I understand you are so busy. Please send your message when you get free time.

About coronavirus infected person,  
I think more people are infected than statistics, too. In Shizuoka-ken and Japan.

I think that people cannot trust the government of USA is making more horror among the people.  
And in fact, USA government is ..., I think.

We have to fight against the horror.  
Though, if it is truth, we have to struggle against ourselves ultimately in spiritual means. We have to beat weak ourselves in our heart.

We can hear footsteps of destiny, history, longtime war.

In our times, present day, the hands of clock naming history must move.

(編集者注 原文のまま)

彼の安全を願っています。また、連絡して、国境を越えて励ましあいたいと思います。

わたしたちも、感染しないように気をつけて過ごしましょう。

## 新型コロナウイルス騒動から学ぶ英語



事務長 小西 恒男

2月初め横浜港に大型クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」が入港した。乗客・乗員3千数百人が乗船しており、その中に新型コロナウイルス感染者がいたことが判明し、感染者増大の恐れありとのことでマスコミは連日そのニュースをテレビで放映し始めた。

私達夫婦は過去2度この船で旅行したことがあり、他人事とは思われなかった。昨年は9月に北海道、ロシアの旅を楽しみ、最終日（9月8日）は東京湾内に停泊して台風15号をやり過ごした想定外の出来事が懐かしく思い出された。

船内での乗客の緊張や船内の共有施設が映像で流されるのを関心を持って眺めていた。感染者が徐々に増加し、更に同室で一緒に過ごす家族が不自由な生活を強いられる姿を見て大変気の毒に感じられた。

その後、中国湖北省・武漢の人々が感染源であることが判明し、中国の春節時期と重なり、日本にも大量の中国人が来日、日本への感染拡大の懸念が一気に高まった。

感染防止のための対策が始まったが、時すでに遅しで国内の各地で感染が拡大していった。4月になり新型コロナウイルスの影響はヨーロッパに移り、イタリア、スペイン、ドイツ、イギリスで感染者、死者が発生し、その後アメリカにも飛び火し、感染者、死者がトップとなり、現在も勢いは衰えず世界のすべての国に感染者が蔓延している。

先日NHKのWorld Newsでアメリカニューヨーク州の様子が映し出され、“NY on the brink”とテロップが流された。”brink”の意味が分からなかったので辞書を引いてみた。「崖っぷち」という意味であった。成程、ニューヨークが大変な事態に追い込まれている面白い表現だと思った。



そういえば今迄多くのニュースや解説を見て来て、普段使われていない言葉が多くみられたが、言葉についてあまり真剣に考えなかったが、私自身何故か分からないがこの機会に出て来た言葉の英語を調べてみようという気になった。今後の活動の足しになるかは不明であるが「英語サロン」の材料になるかもしれない。



以下のような言葉を pick up してみた。

### 1) 新型コロナウイルス (New Coronavirus)

” corona “の語源はラテン語で、王冠、光冠（丸い光の輪）、花冠を意味する。ウイルスには大きな球状表面突起があり、王冠や太陽のコロナを思わせる。

このウイルスによる感染症を “ COVID-19 ” と呼ぶ。

正式名称は “Coronavirus disease2019” である。

尚、検査方法としてPCR法がある。これは

“Polymerase Chain Reaction”（ポリメラーゼ連鎖反応）＜新型コロナウイルスの模型＞の略である。

### 2) パンデミック ( Pandemic )

「感染爆発」と訳される。感染症や伝染病が世界的に大流行し、多くの感染者や患者が発生する。

語源はギリシャ語の「パンデミア」でパンは「全て」、デミアは「人々」を表す。

WHO (World Health Organization 世界保健機構) 事務局長よりパンデミックが発信された。

### 3) クラスタ (Cluster)

「集団感染」と訳す。Cluster は群れ、集団、塊を表す英語。

” Disease Cluster “が正式な英語である。

大阪のライブハウスや病院で多数の感染者が発生した。これらの感染場所がクラスタと呼ばれる。



3月25日小池東京都知事が緊急記者会見を行った際、「オーバーシュート」「ロックダウン」といったカタカナを使用したところ、判りにくいといった批判が寄せられたことは記憶に新しい。その後多くの人が使用するようになり世間に浸透するようになった。

#### 4) オーバーシュート (Overshoot)

「感染爆発」と訳す。行き過ぎる、外すの英語。

金融・証券用語で相場や有価証券の価格の行き過ぎた変動を表す。

#### 5) ロックダウン (Lockdown)

「都市封鎖」と訳す。本来の意味は公共の施設などで外部からの闖入者に対して内部の人間の安全確保のため建物を封鎖することである。

世界ではニューヨーク、ロンドン、パリ、ベルリンの各都市、イタリア、スペインでは全土を封鎖している。日本では法的にロックダウンはできないとのことである。

#### 6) 非常事態宣言 (State of emergency)

4月7日安倍首相は非常事態宣言を行った。英語では次の通り。

Prime minister Abe declared state of emergency over coronavirus.

活動自粛の折、暇に任せて思い浮かんだことをそこはかたく記してみた。

更に多くの言葉が使用されているが、このあたりで幕を引く。何かの参考になれば幸いである。

### <事務局便り>

#### 1) ISGG 2019年度第4四半期の活動状況

東京オリンピック・パラリンピックの開催で希望に満ちたはずの2020年は、新年早々から天候不順によりイチゴサロンを中止に至らせたのを皮切りに、クルーズ船から発生した新型コロナウイルスは想像を超えた感染拡大をもたらし、ガイドを始めとするすべての活動を中止させてしまう事態を引き起こしている。

ISGGの新年度の予定もすでに5月の下田「黒船祭り」中止が決定し、その後の活動予定もいつ

再開出来るか予測不明である。

## 2) 2019年度ガイド実績について

2019年度(2019/4~2020/3)のガイド実績は全体で7件となった。その概要は次の通り。

- ① アメリカ人夫婦の城ヶ崎海岸、大室山ガイド(4月 小西恒男)
- ② フランス人記者の東海館ガイド(6月 加藤守康)
- ③ アゼルバイジャン人3名の市内ガイド(8月 加藤守康、小西恒男)
- ④ アイルランド人9名の城ヶ崎海岸、大室山ガイド(9月 小西恒男)
- ⑤ ドイツ・英国・オーストラリア人3名の同行ガイド(11月 主原一雄、加藤守康)
- ⑥ 英国人1名(伊東高校ALTの家族)の城ヶ崎海岸、大室山ガイド(11月 小西恒男)
- ⑦ 英国人2名(伊東高校ALTの家族)の市内ガイド(2月 加藤達雄)

案内した外国人はアイルランド人(9名)、英国人(4名)、アゼルバイジャン人(3名)、アメリカ人

(2名)、フランス人、ドイツ人、オーストラリア(各1名)の合計21名となった。

## 《編集後記》

コロナウイルスの影響で一切の活動が出来ない ISGG, そして家の中で自分のできることや楽しみをみつけている会員の皆さん。今回の Newsletter は多くの方がコロナに関して書いてくれました。Newsletter 投稿デビューの方も多くうれしい限りです。これを機会にどんどん投稿していただきたいです。

コロナの影響は健康、命のこと、経済のことは勿論ですが、それだけでなく、あらゆる人に対してある種の恐怖を持ってしまうという、今まで経験したことのない居心地の悪さもあります。「見えないもの」「何だかよくわからないもの」に対する恐怖が、それを持っているかもしれない自分を含めたあらゆる人に疑惑として向けられた時、そして、それによって人々のコミュニケーションと信頼が崩れていった

時、社会は壊れていくような気がします。

コロナのことなど関係なく季節は変わり、春の花々が咲き乱れています。終わりのないトンネルはないです。コロナをなくすことは無理でも、何らかの方法でその影響を最小限にとどめることが出来ると信じます。

ISGG も今は活動が出来ませんが、唯一活動できる Newsletter の中で自分の意見を言い、それを読んで共感し、仲間意識を持ち、この嵐が過ぎ去るのを待ちたいと思います。

皆様、どうか心身共にお元気で！ (N.I.記)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 414-0023 伊東市渚町 2-48 伊東観光番内 小西恒男

電話・FAX : 0557-36-9828

e-mail : tsunemina@gmail.com

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄